

評価項目（案）について

1 評価項目に関する主なご意見

※ 一部抜粋、加筆修正あり

<第1回>

- その現状の課題を克服するためには、どのような手段があり得るのか、そういう委員会が進むべき地図のような評価項目のマップを御準備いただきたい。

<第2回>

- 一番重要だと考えているのが数字。目標値がなければ作らなければいけないかを考察すべき。
- 目的を達成するために何をすべきかということ。その柱が、利活用促進。
- 利用料金上げれば、利用者が減る。こういうところは、優先順位をつけなければならない。
- 目標値がなく、抽象的であれば、具体的な対応策・提案が難しくなってくる。
- あいちと佐賀の差はどういうところに理由があるのか。
- 利活用促進さえすれば、産業振興は達せられるか。
- 大項目ではなく細項目をあげてあぶりだすような作業が必要。
- 産業振興という大きな目的に、それを支える次の目的が利活用促進であり、これが一番の検討項目と思料。

2 「利活用促進」に対する県の考え

- 目的（設立の趣旨）は、「地域の産業の高度化」や「新産業の創出」。
- 佐賀県が運営費を負担し、産業労働部が所管している施設であるため、県内企業が利活用し、付加価値を高める。結果、税金という形で県民の方へ還元していただくというのが基本。
- 現状利用されていない4割強の余白の部分を
 - ・ 県内企業の利用
 - ・ 県内産業につながるような利用
 - ・ 企業誘致につながるような利用に結びつけていきたい。
- 収入確保によって、在籍する研究者の活動の活性化やPRにつなげたい。
- 利用手法ごとの料金設定そのものの妥当性を検討しなければならない。

3 評価項目（案）

- 以上のことから、「利活用促進」を行っていくうえで、
 - ① 県有ビームラインの産業利用が占める割合（令和3年度の利用実績 **37.0%**）
 - ② ①のうち県内が占める割合（令和3年度の利用実績 **40.4%**）
 の2つの指標を向上させるための評価項目設定が必要と考える。
- これらの指標に影響を与えると思われる評価項目案は以下のとおり。

検討項目（案）																									
1 PR	<p>・広報：（ターゲットごとに）どのような媒体・コンテンツが効果的か。</p> <p>・パブリシティ：記事・番組に取り上げてもらうにはどのような工夫が必要か。</p> <p>※ アンケート調査によると「利用のきっかけ」としては以下のとおり</p> <p style="text-align: right;">（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>利用のきっかけ</th> <th>2019年度</th> <th>2020年度</th> <th>2021年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パンフレットを見て</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ホームページを見て</td> <td>31.1</td> <td>30.0</td> <td>34.2</td> </tr> <tr> <td>人からの紹介</td> <td>55.6</td> <td>52.5</td> <td>52.6</td> </tr> <tr> <td>講習会、セミナー受講</td> <td>4.4</td> <td>5.0</td> <td>5.3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>8.9</td> <td>12.5</td> <td>7.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 2019年度は回答依頼数76、回答数40（回答率約52.6%）</p> <p>※ 2020年度は回答依頼数79、回答数40（回答率約50.6%）</p> <p>※ 2022年度は回答依頼数79、回答数39（回答率約49.4%）</p> <p><参考：「その他」の具体的なご意見></p> <p>■2019年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターの立ち上げから関わっているため ・センターからの紹介を受けて ・実験が必要になったから ・元佐賀LS設置準備委員で存在を知っていたため <p>■2020年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業利用コーディネーターの説明 ・過去の共同研究がきっかけ ・過去のプロジェクトへの参加による ・センターの方との利用相談 ・必要だから <p>■2021年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究がきっかけ ・施設のビームラインについて知っていたので ・宮城県の補助事業 <p>※ 一部加筆修正あり。</p>	利用のきっかけ	2019年度	2020年度	2021年度	パンフレットを見て	0	0	0	ホームページを見て	31.1	30.0	34.2	人からの紹介	55.6	52.5	52.6	講習会、セミナー受講	4.4	5.0	5.3	その他	8.9	12.5	7.9
利用のきっかけ	2019年度	2020年度	2021年度																						
パンフレットを見て	0	0	0																						
ホームページを見て	31.1	30.0	34.2																						
人からの紹介	55.6	52.5	52.6																						
講習会、セミナー受講	4.4	5.0	5.3																						
その他	8.9	12.5	7.9																						

2 サービス向上	<ul style="list-style-type: none"> ・県内企業等の訪問（産業利用のコーディネート活動） ・多様な利用方法（包括利用、トライアル利用 等） ・測定代行、検査・分析会社の活用 ・成果公開無償利用
3 収入確保	<ul style="list-style-type: none"> ・B L利用料金体系 ・その他の料金体系 ・外部資金獲得手法の導入
4 人材確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な研究員の確保 ・採用後の人材育成

※ 評価項目（案）関係の深い各取組実績（あいちSRの実績も含む。）は別紙1のとおり。